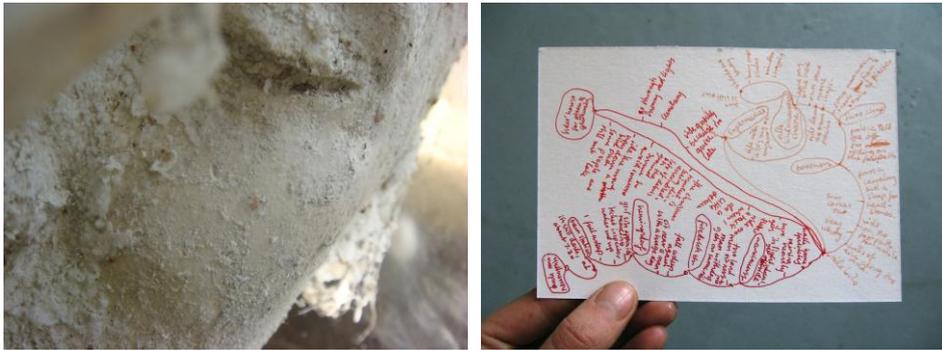


まいにち美術でいきている — Living Everyday by Art

展示期間：2012年7月18日（水） - 7月29日（日）

ワークインプログレス：2012年6月13日（水） - 7月15日（日）



（左：エリザベス・プレサ、右：ティア・レヒナー）



（左：薫谷楽、右：進藤詩子）

関係者各位

いつもお世話になっております。

この度、アーティスト進藤詩子の企画によるプロジェクトを開催致しますので、ここにお知らせいたします。

複数のコミュニティーや国に属して活動を続けるトランスボーダーなアーティストが増える今日、日本国内外のアーティストの活動を支援する遊工房アートスペースを舞台に、ベルリン、メルボルン、NY、東京に各々の足場を持つ4人のアーティストの日々を結びます。一所に属さずにアーティストとしての生活や立場を維持すること。生活、仕事、愛にまつわる日々の営みとアートの関係性。これらのテーマを軸に、「毎日を美術で生きる」ことから派生する様々な表現を、アーティストのみならず、様々な立場で「まいにちを生きる」人々と共有することを試みます。

尚、このプロジェクトはワークインプログレス期間の5週間、展示期間2週間から構成されます。又、遊工房アートスペースという「場所」と並行して、遠隔地からもプロセスを共有したり、参加できるオンライン上のブログ「スペース」を持つ予定です。

どうぞご高覧下さい。



[詳細情報]

■企画名：「まいにち美術でいきている -Living Everyday by Art-」

■参加作家：エリザベス・プレサ、ティア・レヒナー、蔦谷楽、進藤詩子

■会期： ワークインプログレス期間 6月13日(水)-7月15日(日) 12:00-19:00 毎週土・日に一般公開

展示期間 7月18日(水)-7月29日(日) 12:00-19:00 (最終日17:00まで) 月火休み

■関連イベント： 6月23日(土)-24日(日) 読書夜会「*The Pillow Book* -枕草紙-」エリザベス・プレサ、他

7月7日(土) 蔦谷楽、他

7月28日(土) 「クロージングパーティー」参加作家全員、他

■協力：久里屋グラフィック

■会場：遊工房アートスペースギャラリー (〒167-0041 杉並区善福寺3-2-10)

■問い合わせ：Tel)03-5930-5009, Fax)03-3399-7549, Email) info@youkobo.co.jp, URL) www.youkobo.co.jp

■担当：村田弘子、進藤詩子

[交通のご案内]

公共交通機関：JR中央総武線「西荻窪」北口バス2番「上石神井」「大泉学園」行き「善福寺」下車すぐ

JR中央総武線・地下鉄丸ノ内線「荻窪」北口バス0番「武蔵関駅」「北裏」行き「善福寺」下車徒歩一分

自動車：青梅街道「善福寺三丁目」交差点南、桃井第四小学校北隣

[作家紹介]

エリザベス・プレサ (メルボルン在住)

彫刻・インスタレーション作家のエリザベス・プレサは、メルボルン大学Victorian College of the Arts 学部 Centre for Ideas の所長を勤める傍ら、ジャン・リュック・ナンシー、アレクサンダー・ガルシア・デュトマンらヨーロッパ系哲学者との協働プロジェクト、実娘で作家のアナスターシャ・クロセとのコラボレーション、パリでのレジデンス・リサーチなど、精力的に活動しています。文学や哲学のテキストを用いて制作することの多いプレサ。今企画では、映像作家クリス・マーカーク曰く『中世の戦史よりも、確実に且つ深く日本の感性を記録した、微細な事象への沈想と瞑想』である清少納言の「枕の草子」を出発点とし、私達の日常の舞台となる「世界」に色、影、形、そして意味を与える光のパターンに着目、画像やオブジェに「翻訳」し、Eメールや郵送で定期的に会場に送ります。6月18日からの一週間、初来日を予定しており、ワークインプログレスの現場に参加、又、今企画のローンチイベントとして、ゲストや来訪客を交えての「枕の草子」リーディング・パフォーマンスを行なう予定です。

作家ウェブサイト <http://elizabethpresa.com/>

ティア・レヒナー (ベルリン在住)

昨年ベルリンへ移り住んだティア・レヒナー。彼女の制作活動は日常生活の流れに位置し、移動と観察のプロセスから「モバイルスタジオ」を構え、そこで出会う現象を制作に取り込みます。ある型に沿った日常やライフスタイルが芸術活動を維持するという見解がある一方で、芸術活動自体が日常そのものを維持する役割を果たすと考えるティア。今企画では、考える間も無く忙しく繰り返される毎日の中で、一息ついて観察し、気付く瞬間、云わば「無の瞬間」を如何に持つことができるか、そして、常に変化するプロセスにどの様に自分自身を置くことができるかを探ります。ルーチンから開放されて些細なことにも注意を向けられる旅行者の視覚と意識のモードを、束の間でも確実に日常へ挿入出来るメディアとして、“ポストカード”というコンセプトを用い、郵便箱やEメールの受信箱に収まるサイズのドローイング、テキスト、ビデオ等を定期的に遊工房に送ります。又、2011年のAlternations(ウェリントン)でのレジデンスにて、制作プロセスをブログから発信し好評を得たレヒナーは、今企画全体のブログ作成に関わる予定です。

作家ブログサイト <http://alterations-resident.blogspot.com/>



蔦谷 楽（ニューヨーク在住）

2000年代、ユニット活動 gansomaeda、アーティスト新聞 Inner Crush Scene 創刊（第1号は遊工房レジデンスアーティストとして発表）等の活動を展開、後にニューヨークへ渡った蔦谷。日本人として現代美術の文脈で活動する中で生まれる様々な疑問や葛藤を経て、芸術の発祥を常に自分自身の中に見つけ表現する事に向き合っています。近年は、手を使うという基本的な身体性を一番の拠り所に、制作を通してしか知り得ない芸術の役割と社会におけるその位置を探っています。昨年より、作家の感情を突き動かす主題を元に1日1ページ進むマンガをウェブで公開、更はその日々を再考(構)築しつつ変化するトランスフォーム彫刻を展開しています。変化と普遍が共存する心的世界に時間をかけてアプローチする蔦谷は、今春 nitehi works(横浜) で開催されたグループ展「せかいのつくりかたー自己と世界の関係をめぐるー」で、1年間描きためたマンガの一部と発泡スチロールの彫刻によるインスタレーションをワークインプログレスで公開。今企画では、NYから新シリーズのマンガを週刊でウェブから発信、東京を初め世界に届けます。

作家ウェブサイト <http://www.gakutsutaja.com/KOTATSU/neo-epoch/neo-epoch.html>

進藤 詩子（東京在住）

昨年、9年に渡り滞在制作・発表を行ったオーストラリアから拠点を日本に移した進藤。場所への属性・非属性を問う立場から、時空間に人が在るという事象を探るサイトスペシフィックなインスタレーションを制作してきました。描く、写す、刷るといった工程を要するドローイング、写真、版画等のメディアを用いて、イメージを視覚化すると共に自らの身体の揺れを記録。微細な動きを内包する平面作品を展示の時空間へ投入することで、常に変化する観客の身体感覚や場所の物質的状态を明らかにし、又、隔たりのない相互の関係を示唆することを意図します。場所と人、そして作品の具体的な接点を探るアプローチは、接点自体を創出する活動を導き、2009年から3年半に渡り、7人の日豪作家と共にレジデンスや展示、シンポジウム等を併せた「内在の風景」プロジェクトを展開しました。今回、2011年からスタッフとして運営に関わる遊工房アートを中継点とし、トランスボーダーな立場にいる他3人の作家と共に、日々の営みと制作の密接な関わりを考察するプロジェクト「まいにち美術でいきている」を企画。グローバルアートコミュニティの交流拠点であり、生活者としてのアーティストを支援する遊工房から、「まいにち美術でいきている」ことの表現を発信します。

作家ウェブサイト <http://www.ushindo.blogspot.jp/>